

会報

January 2025 第26号

協会設立50周年を迎えて ーオープンバッジの導入へー

産学官・会員校代表者等交流会

テーマ 「今、大学がなすべきことは何か ー社会が求める能力の育成ー」

「高等教育政策の動向について」

文部科学省高等教育局大学教育・入試課課長補佐 山田 研市氏

「企業が大学に期待すること ー企業が求める大学教育及び学生ー」

株式会社毎日新聞社 取締役常務執行役員 砂間 裕之氏

パネルディスカッション

CONTENTS

	Page
代表理事・会長ご挨拶	2
産学官・会員校代表者等交流会	3
会員校紹介 宮崎学園短期大学	5
資格を仕事に活かしている卒業生の紹介	7
研修・講座事業	9
実務教育優秀教員寄稿文	10
当協会が取り組んだ「ネットワーク支援事業」	11
協会からのお知らせ	13

協会の発足と使命

協会の発足と使命

協会の発足した 1973 年のころ、まだ実務教育のことが話題にもならなかった当時、社会で活躍できる実務の素養と人間力を備えた女性の能力開発に着目し、大学・短期大学における秘書教育課程を開発して、資格を授与することになりました。こうして本協会前身の全国短期大学秘書教育協会が始まりました。続いて、情報処理教育課程、ビジネス実務教育課程などを開発し、資格を授与してきました。

その後、協会の名称を全国大学実務教育協会に変更し、時代の要請や社会のニーズを捉えて、実務教育に関わる数多くの教育課程を開発し、資格を授与することになりました。以来、初期からめざしてきた方向、つまり社会的に役立つ人間力を備えた実務教育の資格授与、実務教育研究の推進、大学・短期大学における実務教育の在り方を追求することを本協会の使命として堅持しています。

協会の事業方針

- | | | | |
|--|---|---|--|
| ●本協会は、実務教育・キャリア教育はどうあるべきかを問い続けその実践をリードし、もって大学・短期大学教育の質的転換に貢献します。 | ●本協会は、対話を通して産学官民との連携を密にし、社会の変化に対応し、社会を創る人材育成に取組みます。 | ●本協会は、実務教育・キャリア教育に関わる認定事業の質保証を図るために、資格認定に新評価制度を導入します。 | ●本協会は、大学・短期大学における能動的学修をリードする教員力養成を推進します。 |
|--|---|---|--|

本協会が捉える「実務力」とは

どのような職業に就いて働く場合でも私たちは様々な実務を担って責任を果たしています。実務力とは、特定の知識・技能だけを意味するのではなく、自分の持てる力を活かして結果を出す人間力を含む総合的実践力が実務力の中核であると捉えています。

協会のめざす実務教育とは

本協会の実務教育とは、「実社会を知り、自分を知る」を基軸におく人間力をベースに、実務を推進する総合的実践力を基本において育成をはかるものです。この幅広い実務実践力は失敗や成功を伴う体験学修を重ね、自ら獲得していくものであると捉えて、本協会の種々の資格教育課程を提案しています。

資格教育課程の質保証方法とは

一人ひとりの資格教育課程の修了者の質保証をはかるには、大学における単位認定結果（GPA等）に加えて、学修者自身による資格到達目標達成度評価結果（学びの自己評価と継続課題等）の明確化が求められます。この質保証の考え方のもと、2023 年度より本協会は、資格到達目標達成度評価制度を導入し、新たな評価方法（協会独自のものまたは大学オリジナルなもの）を順次導入していきます。

ご挨拶

一般財団法人 全国大学実務教育協会
代表理事・会長

森 征一



協会設立50周年を迎えてーオープンバッジの導入へー

協会会員校等の皆様には日頃から協会の事業活動に多大なご尽力を賜り、心から感謝申し上げます。

協会は昨年度に設立50周年という大きな節目を迎えましたが、今年度からは次の50年に向け、新たな気持ちで大学と社会をつなぐ実務教育のあるべき姿を求めて、会員校の皆様とともに歩み続けていきたいと思っております。これまでと同様、皆様のご支援とご協力をいただきたく、よろしくようお願い申し上げます。

協会はこれまで、働く社会と学ぶ大学との間の「すきま」を埋める実務教育の必要性を認識し、まず学生を対象に産業人材の育成を目指す資格認定事業を立ち上げ、ついで社会人を対象に実務教育を担う教育者の養成を目指す講座・研修事業を進めてきました。

実務教育とは、働くことと学ぶことの間を生じるギャップを埋める教育のことであり、協会はそのを通して社会と大学を架橋する人材の育成に貢献することをその使命にしています。

協会は近年の激変する社会に対応するために、「中長期経営戦略」を立てて既存の資格のリニューアルや新資格の開発を図る一方で、「大学実務家教員」養成等の講座・研修の充実にも努めてきました。社会が変化すれば実務教育の内容も変化して然るべきと考えるからです。

直近では、ビッグデータやAIによって駆動されるデジタル社会に対応するために、新資格として「データサイエンス・AI実務パスポート」を開発しましたが、早くもこの新資格の取得者が出ています。データサイエンスやAIの知識がいまや働く上で欠かせない基礎教養となっていることのあらわれかと思われまます。

協会は、この資格の開発を機に、さらなる発展のために、オープンバッジの導入に踏み切るべきと考えています。

言うまでもなく、オープンバッジとは、世界共通の技術標準規格に沿って発行される、資格の取得や研修講座の受講などの学習歴を証明するデジタル認証のことですが、企業、大学、資格認定団体など、これを発行する機関が増加してきており、企業の人材採用においても重要なツールとして活用されつつあります。

オープンバッジのメリットは交流サイト(SNS)やメールなどデジタルツールを使って、資格の取得や研修講座の受講などで自分が身につけた知識や技能を、いつでも自分の強みとしてアピールすることができ、より多くのチャンスの獲得につなげることができることです。協会はこれまで紙の認定証を発行してきましたが、今後はデジタルの認定証としてオープンバッジの発行も視野に入れる必要があります。

協会がオープンバッジ発行団体として適格であるとの認定を受けて、信頼できる資格認定団体として認知されれば、オープンバッジの活用によってブランド力がさらに高まり、そのことが協会の資格取得者、研修受講者、さらには会員校の増加につながっていくのではと期待できます。

最後になりますが、急速に進む少子高齢化等に伴って、いま大学を取り巻く環境が厳しさを増してきているなか、この難局を乗り越えるため、協会は今後とも会員校等の皆様とともに、産学官連携の下、実務教育の可能性を追求し続けていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2024年度 産学官・会員校代表者等交流会

2024年12月13日14時から、アルカディア市ヶ谷の会場に31名、リモートで14名、合計45名の大学・短期大学の方々が参集し、2024年度会員校代表者等交流会を開催しました。今年度のテーマを「今、大学がなすべきことは何か―社会が求める能力の育成―」として産学官各界からご講演いただきました。

1. 基調講演



「高等教育政策の動向について」

文部科学省 高等教育局大学教育・入試課 課長補佐
山田 研市 氏

山田研市氏は、「高等教育政策の動向について」と題して、高等教育の改革に向けた取り組みについて述べられました。

1. 中央教育審議会での審議動向について

平成30年に示された「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン答申」では、学習者本位の教育への転換が提言された。この答申に基づき、高等教育政策は改革が進められている。中央教育審議会では、急速な少子化を踏まえ、高等教育の適正な規模と質の高い教育機会の確保に向けた議論が続けられている。

2. 急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方について（中間まとめ）

少子化に伴う18歳人口の減少は、高等教育機関の規模維持を困難にしている。この課題を受け、少子化による18歳人口の減少を背景に、高等教育の課題と将来像が整理され、未来を担う若者が新しい価値を創造し、地域や社会の持続的な発展に寄与する教育の必要性や高等教育へのアクセス確保の重要性、時代の変化に対応する新たな施策が示された。

今後の高等教育政策の方向性と具体的方策

(1) 教育研究の「質」の更なる高度化

- ①学修者本位の教育の更なる推進
- ②外国人留学生や社会人をはじめとした多様な学生の受入れ促進
- ③大学院教育の改革 ④情報公表の推進

(2) 高等教育全体の「規模」の適正化

- ①18歳で入学する日本人学生以外の受入れ拡大
- ②高等教育全体の規模の適正化に向けた支援

(3) 高等教育への「アクセス」確保

- ①地理的観点からのアクセス確保
- ②社会経済的観点からのアクセス確保

3. 私立学校法改正の状況について

令和7年4月1日に施行される私立学校法改正は学校法人のガバナンスを強化するものであり、作成した資料のインターネット公開が義務化される。この改正により、運営の透明性が高まり、説明責任の強化が期待される。設置認可審査の厳格化や大学間連携の推進も進められており、持続可能な大学運営の確立を目指した取り組みが行われている。

4. 令和7年度概算要求予算の概要

少子化時代に対応した大学改革支援のため、文部科学省は総額4,475億円の予算を要求している。主な内容として、特色ある改革に取り組む大学を支援する「転換支援パッケージ」がある。このパッケージには、大学経営改革支援に35億円、私立大学等改革総合支援事業に112億円、耐震改修など安全・安心な教育環境の実現のために103億円、教育環境のデジタル化推進など成長力をけん引する研究力・国際競争力のために65億円が計上されている。これらの予算を通じて、高等教育の質の向上と持続可能な運営体制の確立が目指される。

5. 税制改正関係について

税制改正では、学校法人への寄附金に関する税額控除の要件が見直された。改正により、税額控除対象法人となるための実績判定期間が5年間に2年間に短縮され、経営改善計画の作成が条件として追加された。この改正により、寄附者が税制優遇措置を利用しやすくなり、学校法人の財政基盤の強化が期待される。



「企業が大学に期待すること ―企業が求める大学教育及び学生―」

株式会社毎日新聞社 取締役常務執行役員
砂間 裕之 氏

砂間裕之氏は、長年の記者経験と人事部門での業務を通じ、教育とビジネスの現場双方を見てきた立場から、企業が大学教育に期待する内容と、学生に求めるスキルについて述べられました。

1. 企業人事担当者の考え

全国の人事部人材育成担当者550名を対象にした日本漢字能力検定協会による調査（2020年実施）において、人事担当者の96.4%が「文章力はビジネスにおいて必要」と回答している通り、企業活動において文章力は強く求められている。その一方で、社員向けの文章力研修を実施している企業は少数派だ。

企業担当者からは「若手社員が文章の要点をまとめられない」「プレゼン資料がまとまらず冗長になる」といった課題が挙げられたように、大学教育は文章力の重要性を再認識しこの課題に積極的に取り組むべきだ。

2. 毎日新聞の記者トレ

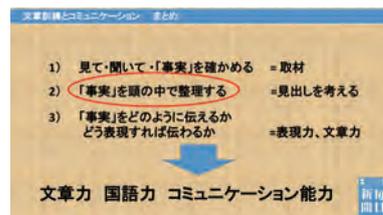
毎日新聞が提供する「記者トレ」プログラムは、文章力や取材力を養成する研修プログラムである。このプログラムは、東京理科大学の伊藤元教授が新聞記者の取材や執筆方法を体系化したものであり、記者やアナウンサーが添削を行いながら進行する。具体的には、要点を見極め、論理的に文章を構築する技術を学ぶ内容となっている。このプログラムは、新聞記事作成の手法を基にしており、見出しを考えることで情報を整理するプロセスを重視している。

企業においては、報告書や企画書の作成効率を高め、生産性を向上させることができると評価されている。また、学生向けには探究学習を通じた課題解決能力の向上が期待されており、高校や大学でも導入されている。

3. 文章訓練とコミュニケーション

文章力の鍛錬は、単なる表現技術を超えた多面的な効果を持つ。文章を書く過程で思考を整理することで、論理的思考が深まり、情報を適切に伝える能力が磨かれる。情報を要約し、簡潔に表現するという能力は、課題解決型ビジネスやチーム内コミュニケーションにも大きく寄与するだろう。

また、日常業務においても「多くの情報から要点を抽出し、簡潔な文章にまとめる訓練」が必要だ。教育現場で作文や小論文の訓練を積み経験は非常に重要であり、学生時代に鍛えられた文章力が社会で活躍する基盤となる。



II. パネルディスカッション



大学広報の視点から

株式会社シンクアップ 共同経営者（専務取締役）
学校広報ソーシャルメディア活用勉強会 事務局長

山下 研一 氏

昨今では少子化や大学全入時代を迎えた影響によって大学間の競争は激化し、定員割れを起こす大学も出てくるなど厳しい状況に直面しており、多様化の時代に合わせた新たな広報戦略が必要とされています。

広報とは単なる情報発信ではなく、大学がそれぞれの強みや魅力を整理し、ステークホルダーに伝える必要があります。4P分析やSWOT分析、STP分析によって大学が持つ豊富な教育・研究コンテンツを整理し、プロモーションミックスを活用した広報戦略を作成することで、小規模な大学でも効果的な広報活動が実現できるでしょう。

また、広報活動において何よりも重要となるのはチーム作りです。そのためには、組織や機構の改革が必要になります。本年は大学の在り方について非常に議論が進みましたが、今後はさらにこの課題に注目し、多様性を重視したオープンな大学運営を目指す必要があるでしょう。

胸を打つ教育を通じて一人ひとりの人生のウェルビーイングを実現する中規模総合大学

大手前大学 学長 平野 光俊 氏

現代では、社会が大学に求める能力とは何か、それが大学教育でどのように実現するかが問われています。大手前大学では2030年を見据えた「一人ひとりの人生のウェルビーイングを、胸を打つ教育を通じて実現する中規模総合大学」というビジョンを掲げ、「豊かな教養と専門知識およびその活用力」→Knowing（知識）、「優れた国際感覚と他者と協働して問題を解決する能力」→Doing（実践力）、「豊かな人間性と肯定的自己概念および社会的責任を果たそうとする強い意志」→Being（信念と志）の3つのコンテンツを大学のディプロマポリシーに明文化し、「胸を打つ教育」を実施しています。

また、「問い」を起点とするクロスオーバー教育や経験学習サイクルの導入により、学生が自らの問題意識に基づき、学ぶ内容を自由に選択できる環境を整えています。

現代社会で求められるパーパス経営では、企業の使命や価値観と従業員個人の志の接合が重要です。大手前大学では、この目標の実現に向けて教職員が一丸となり、学生のウェルビーイングを実現する教育を推進しています。

常磐大学が担う人材育成 —地域連携活動による実学の実践を通して—

常磐大学・常磐短期大学 学長 富田 敬子 氏

常磐大学は「実学を重んじ、真摯な態度を身につけた人材を育てる」を建学の精神とし、地域と世界に貢献できる人材育成を目指しています。学生の約9割が県内出身、卒業生の約8割が地元で就職しており、特に看護学部や幼児保育専攻の卒業生は医療や福祉、教育の分野で重要な役割を果たしています。

また、「グローバル教育」をテーマに、地域課題と国際課題をともに理解し解決する力を養うため、自治体や企業と連携するなど、地元への理解や地域貢献を深めています。

また、人材定着率の向上への取り組みとして、卒業生を招いたキャリア教育や、社会の変化に対応する教育プログラムや卒業生向けリカレント教育を充実させています。今後も地域密着と国際視野を両立した教育を通じ、常磐大学は地域課題解決に貢献し、地域社会だけでなく世界で活躍できる人材育成を進めてまいります。

会員校紹介

宮崎学園短期大学



今回ご紹介する会員校は、宮崎市内にある宮崎学園短期大学です。宮崎学園短期大学は、1965年に保育科の短大として創立され、現在は保育科と現代ビジネス科を設置しています。また、次の特色がある宮崎学園短期大学は、企業や団体、公共機関、保育園、認定こども園などに即戦力となる人材を送る県内有数の短期大学です。

<宮崎学園短期大学の特色(抜粋)>

- ・半世紀以上の伝統と実績
- ・高い教育力に裏打ちされた高い学生満足度
- ・個々人の必要性に応じた資格や検定へのサポート
- ・99.4%の高い就職率
- ・即戦力となる充実した実習

学生が自分に合った資格を主体的に選べるように、本協会の次の資格を導入していただいています。「実践キャリア実務士」、「情報処理士」、「ビジネス実務士」、「上級ビジネス実務士」、「上級秘書士(メディカル秘書)」、「プレゼンテーション実務士」、「こども音楽療育士」
2023年度には113名の学生が資格認定証を受けられました。



学長 村上 昇 先生

POINT リベラルアーツ教育の可能性

多様で予測不能な現代では、資格や専門知識に加え、創造力や問題解決能力、クリティカルシンキングといった非認知能力を育むリベラルアーツ教育が重要です。そこで本学では、少人数制のアクティブラーニングを通じて、学生が自ら考え、議論し、課題を解決する力を養っています。また、情報リテラシーや異文化理解といった現代の社会で必要とされる能力を取り入れたカリキュラムも設置しています。そのなかで、企業との連携を強化し、奨学金の提供や実践的な講義を展開することで、学生たちが学びを社会に生かす道を広げています。これからの短期大学は、専門学校との違いを明確にしていく必要があります。専門性の獲得にとどまらず、幅広い教養と柔軟な思考力を育むことで、学生自らが未来を創り上げることができる学びの場となることを目指しています。



保育科長 教授 後藤 祐子 先生 POINT 主体的な教育で未来の保育者を育む

保育科では、保育者として必要な指導力と実践力を養うことを目標に、学生の主体的な学びを支援しています。特に近年では、幼児期の遊びや体験が非認知能力を育む重要な要素とされており、子ども主体の保育が求められる時代になりました。そのため、私たち保育科では、子どもの学びや気づきを大切にしながら、学生自身も体験を重ねて学べる環境づくりを心掛けています。本学では、学生が実践の場で経験を積む機会を用意しているほか、今年度からは3年制コースを導入し、学びを深める時間を確保しています。子どもの保育に関する厚労省の指針が見直されたこともあり、少子化の時代にあっても保育はなくなる仕事です。より柔軟なカリキュラムの導入なども含め、未来を担う子どもたちを支える保育者を育てる教育に今後も取り組んでいきたいと思っております。



現代ビジネス科長 教授 黒野 伸子 先生 **POINT** 資格を活かす学びの実現

現代ビジネス科では、学生がキャリアデザインを行いやすい学びを、資格取得を通じて提供しています。目標となる資格を設定し、それに向けて科目を選択するというプロセスは、学生の主体性と計画力を養います。また、本学では資格を取得した後にそのスキルをどのように活用するかを考えさせる指導も重視しており、就職活動では取得した資格がどのように社会で役立つかを説明できるよう指導しています。自分で選んで学び、取得した資格が学生たちの自信になるのです。こうした実践的な学びの積み重ねが、卒業後の就職や社会での活躍に繋がると考えています。

これからもきめ細かな指導を通じ、学生一人ひとりが「自ら選び、自ら道を切り拓く力」を身につけられるよう、学生たちの未来をサポートしていきたいと思ひます。



保育科 教授 教務部長 井上 浩義 先生 **POINT** 保育と音楽の未来を拓く教育

本学の保育科では国家資格取得に必要な幅広い学びを展開していますが、なかでもこども音楽療育士の資格は、音楽を通して自分の保育をより高めていきたいと考える学生や、保育科を志望する高校生にとってのニーズが強いです。音楽は、保育の現場で子どもの感性を引き出し、自己表現を育む鍵となります。特に、発達が気になる子どもたちへの支援には、音楽の力が大きな効果を発揮します。学生が資格を取得することで、自分の学びを形にし、それを通じてより高い実践力を身に付けてほしいと思ひます。

保育科の学生の多くは意欲が高く、国家資格取得に必要な80単位を超え、さらに上を目指して複数の資格取得に挑戦しています。自分の将来や就職に直結している短期大学だからこそ、多様な資格から学生自身に合ったものを選択し、取得してほしいと思ひます。



入試広報部長 山田 秀人 さん **POINT** 短期大学が提供する学びの価値

本学では「ワンランク上の人材」を目指しています。保育科では、保育士や幼稚園教諭二種免許の資格取得に加え、こども音楽療育士や発達障がい児サポーターといった多様な資格を揃えることで、学生の個性や興味を活かした学びを推進しています。特にこども音楽療育士の資格に関しては、九州内でも数少ない取得可能な短期大学になりますので、県外からの入学も見られます。また、現代ビジネス科では入学後に興味に合わせたコースを選択できる柔軟なカリキュラムを採用しており、プログラミングや観光、グローバルコミュニケーションなど、時代のニーズに応じた幅広い学びを提供しています。短大は資格を取得するとともに、学生一人ひとりの可能性を広げる場であり、地域や社会への貢献を目指す人材育成の拠点です。これからも短期大学の役割を広く伝え、進路選択の可能性を示していきたいと考えています。



教務課長 外山 雅士 さん **POINT** 資格取得で社会人基礎力を修得する

本学では、学生が未来を切り拓くための学びを提供することを大切にしています。その中で、資格は単にスキルや知識を証明するものではなく、学生自身が努力して得た成果を形にしたものであり、重要な役割を担っています。短期大学の現代ビジネス科では情報処理士や実践キャリア実務士などの資格、保育科ではこども音楽療育士などの資格が就職に直結します。また、四年制の宮崎国際大学でも資格を取得できるようにしています。

資格という目標があることによって学びの流れやつながりが整理されるだけでなく、ジェネリックスキルの修得もできるので、学生は基礎から応用、発展までを体系的なカリキュラムで学ぶことができます。本学で学んだことを活かし、学生たちが自信を持って社会に羽ばたくことを願っています。



保育科 2年生 上田 明日香 さん **POINT** 多彩な学びと経験が夢を支える

幼い頃から幼稚園の先生に憧れていた私は、高校生の頃に本格的に保育士・幼稚園教諭を目指すことを決めました。その中でも宮崎学園短期大学に進学することを選んだのは、就職を強く意識したからです。保育士や幼稚園教諭二種免許の資格だけでなく、こども音楽療育士や発達障がい児サポーターなどの多彩な資格が取得できる点に魅力を感じたからです。「資格が増えるほど将来の選択肢が広がる」という先生や家族のアドバイスが決め手になりました。

座学と現場実習を組み合わせたカリキュラムを通じて、実践的なスキルを磨いています。保育の現場では、子どもたち一人ひとりと向き合う大切さを実感しました。

忙しい日々ですが、自分の夢に向けて「やりたい」と思ったことに取り組んでいるため、充実感があります。今後は専攻科に進学し、さらに将来の選択肢を広げていこうと思ひます。

資格を仕事に活かしている卒業生の紹介

当協会は現在25の資格を有しており、その内容は多岐にわたっています。「全国大学実務教育協会」の名前のとおり、各資格を取得するために学修するカリキュラムは社会に役立つビジネスに直結したものです。このコーナーでは、資格を取得して企業・団体などで活躍している方々を紹介します。

秋野尚也さん

取得した本協会の資格「実践キャリア実務士」
札幌国際大学スポーツ人間学部ビジネス学科卒業、現職は札幌国際大学教務課勤務



取得した資格について就職面接で説明

私は入学時に「実践キャリア実務士」の資格が取得できることは知りませんでしたが、所属学科では全員が取得しました。就職活動の際に、まさにこの資格での学修に沿って自分のキャリアを振り返っていくうちに、人と接する仕事が向いていることに気付き、スポーツ業界等に就職活動をしましたが納得する結果ではなく、ゼミの先生から学内就職試験を勧められ現在に至っています。

就職面接では取得した資格について訊かれましたので、授業で学んだ科目の内容や、社会に出る上で基盤ともなり得る資格であることを説明しました。授業科目は「実践キャリア実務士」資格を取得できるように自分で科目を組みました。この資格は、パソコンやビジネス実務演習や情報機器操作など社会に出る前に学びたい授業の延長線上にある資格でしたのでとても意義のある資格です。

データサイエンス・AIの資格は、スポーツの世界でも重要ですので大変興味があります。毎日勉強の日々ですが、「実践キャリア実務士」資格で学修したようにキャリアを積んで立ち位置を上げていき、職場である母校をより良くするためにアンテナを張りながら、更に研鑽してキャリアを積み上げていきたいと考えています。

湯田美穂さん

取得した本協会の資格「情報処理士」「ビジネス実務士」
鹿児島女子短期大学 教養学科卒業、現職はハローワークの就職支援ナビゲーター（キャリアコンサルタント）



受験資格より価値のあるカリキュラムに沿った協会の資格

入学時には資格を取得できることを知りませんでしたが、興味のある情報処理士とビジネス実務士の資格を取得しました。在学中は、資格を取得できる科目を履修するように心掛けました。また資格の生かし方を考えずとにかく一所懸命勉強しました。就職してはじめて資格が実務に役立っていることを実感しました。私の経験から言えることは、資格は自分が積み重ねて学んだことの証明になりますし、取得した資格を活かす場面は必ずありますので、在学中はとにかく興味のある資格を選んだならば、その資格を取得することに集中すればよいと思います。

国家資格など受験して取得する資格と協会の資格を比較した場合、国家資格などは試験対策をしてテストに合格すれば取得できますが、協会の資格はカリキュラムに沿った中長期的な学修の積み重ねで取得できる資格ですのでとても価値があると思います。

就職面接で資格について質問されましたので、資格を持っていることは就職活動に有利だと思います。また、企業が求める能力やスキルは、基本はビジネススキルの基礎ですので、パソコン操作やビジネス実務士、秘書士のスキルは評価されると思っています。

今の学生に学んでほしいことは、自己表現、意思表示、コミュニケーションスキルです。是非、実務に即した科目を履修して社会で実践してほしいと思います。

島地果歩さん

取得した本協会の資格「実践キャリア実務士」「上級ビジネス実務士」「情報処理士」、他団体の資格「司書資格」「社会福祉主事任用資格」「簿記」
宮崎学園短期大学 現代ビジネス科卒業、現職は宮崎学園中学校・高等学校事務職員



短大での学びと修得した資格が仕事に直結

進路に迷っていたとき、宮崎学園短期大学が資格取得の選択肢を豊富に提供している点に魅力を感じて進学を決めました。普通科高校出身で英検以外の資格を持っていなかったため、大学在学中に多くの資格を取得して就職に役立てたいと考えていました。進学にあたっては4年制大学も検討しましたが、私の目標は就職だったため、学位と資格を効率よく取得できる短期大学に進学しました。

大学生活では資格取得を主軸に授業を組み、空き時間がほとんどないほど積極的に取り組みました。その結果、司書資格、実践キャリア実務士、上級ビジネス実務士、情報処理士、社会福祉主事任用資格、簿記といったさまざまな資格を取得でき、自分のスキルが形として目に見えるのが非常に励みになりました。

現在は宮崎学園中学校・高等学校の事務職員として働いています。受付業務では、在学中に受講したビジネスマナーの授業やビジネス実務演習が役立っており、短大での学びが今の仕事に直結していることを実感しています。短大での2年間は、就職に向けた貴重なステップとなりました。

古瀬菜津美さん

取得した本協会の資格「ビジネス実務士」「情報処理士」「秘書士」、他団体の資格「司書資格」「社会福祉主事任用資格」「簿記」
宮崎学園短期大学 現代ビジネス科卒業、現職は宮崎学園図書館司書



夢を支えた豊富な資格と実践力

小学生の頃から司書に憧れ、進路選びの際には司書資格が取れる環境を重視しました。しかし、この時代、司書だけで生計を立てるのは難しいと感じたため、公務員やビジネス関連も視野に入れ、多くの資格が取得できる短期大学を選びました。最初は4年制大学も検討しましたが、オープンキャンパスで資格取得の幅広さに魅力を感じ、この短大への進学を決めました。

入学後、司書になりたいと担当の先生に相談したところ、本学での司書採用の話をいただき、採用に至りました。在学中に取得した資格は司書資格だけではなく、ビジネス実務士や情報処理士、社会福祉主事任用資格、さらには簿記や秘書資格など、多岐にわたります。「資格は持っている損はない」という考えのもと、取得可能な資格は積極的に挑戦しました。情報処理やタイピングのスキルは、図書館での本の登録作業に役立ち、仕事の効率を上げています。パワーポイントを学んだことで、本の紹介ポップ制作にも活用できました。短大卒業に必要な単位数は2

年間で62単位のため、忙しい学生生活でしたが、その努力が今の仕事に活きていると実感しています。

上級ビジネス実務士・ビジネス実務士

経済社会で即戦力となるビジネスプロの能力修得を目指します。

この資格は、刻々と変化するビジネス界において必要となる総合的実践力を身につけていることを社会に対して保証するものです。



●この資格のアピールポイント

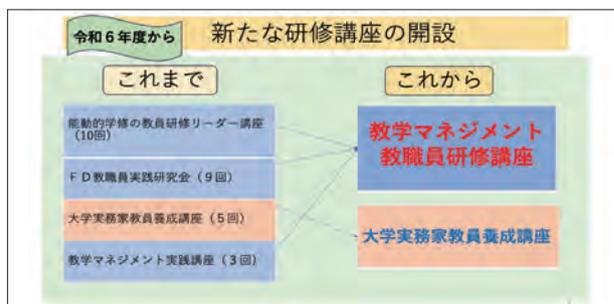
- ・ビジネス実務に関する専門知識や技術を修得します。
- ・業務マネジメント、デジタル情報の活用、チームづくりなどの総合的実践力を身につけます。
- ・社会人基礎力の修得により、即戦力として活躍できます。

研修・講座事業

2024年度に開催した教員研修・講座

当協会の研修・講座事業は文科省が検討し2013年に閣議決定された「第二期教育振興基本計画」に基づいた教育の質的転換を推進するために2014年度から始まり延べ200名を超える学修者を数えるに至っています。

2023年度に開催した大学教育・運営教職員研修特別委員会では、アフターコロナ時代における教職員養成講座の在り方を見直し、2024年度から従来の4つの研修・講座を2つに再編成し、大学・短大が求める教育の質保証・向上を目指すとともに、スムーズな教育研究活動に資する研修・講座にしました。



「教学マネジメント教職員研修講座」

アルカディア市ヶ谷において8月から9月に亘って全4日間の講座を対面で開催し、全国各地から19名の教職員の方々が参加されました。教学マネジメント教職員研修講座は2018年の中教審答申を受けて策定された「教学マネジメント指針」に基づく大学教育の質向上を目的としたもので、講師陣は当協会の代表理事・副会長である松本大学・松商短期大学部学長の清水一彦教授をはじめ6名の専門の大学教員が担当しました。本講座は、昨年度までの「教学マネジメント実践講座」「能動的

学修の教員研修リーダー講座」「FD教職員実践研究会」3つの研修講座のプログラムを系統立てて新たな4日間のカリキュラムに編成しました。前半の2日間では教学改革と大学のブランド化をテーマに、教学IRや教学マネジメント改革について、また大学のブランド化について改革事例の発表をもとにワークショップで活発な討議と発表が行われました。

後半の2日間は、学びの技法・授業デザイン・FDをテーマにアクティブラーニングと具体的な技法、そしてアクティブラーニングを元にした授業デザインの学修、また各受講者がデザインした授業の発表を行いました。また、FDを効果的に進めている大学の実践事例の発表の後にグループ研究を行い、理解を深めました。最終日に台風の影響で会場に来ることができなかった受講者は、リモートで1グループを編成して受講することができました。受講者からは、『教える技法を大学に戻ってから他の先生と共有したい』『学修成果の可視化を更に進めたい』『大学の制度を深く学ぶことができた』『学修したことを機会に地方大学に所属する者として他大学との連携によるブランド化を進めていきたい』などの声がありました。



第6回「大学実務家教員養成講座」

産業界等で実績を残した専門家を実務家教員として迎える大学が増えている中で、本講座は実務家教員あるいは教員希望の実務家の方々に大学教員の役割、研究活動、教育力、授業の持ち方、シラバス作成など、大学教員としての実践力を修得していただき、修了認定証を授与する講座として多大な評価を得ています。

今年度は、既に大学で活躍している実務家教員や大学教員を目指すビジネスマンなど8名の方が参加され、活発なグループ討議をしました。本講座は、A領域とB領域に分けて計4日間行われましたが、A領域では「大学とは何か」「大学教員の役割と機能」をテーマに、高等教育政策と各大学の課題、大学の組織力強化、また研究活動と成果のまとめ方などを学修し、B領域では「大学の授業とは」「大学の人材育成と多様化する学生」をテーマにして授業デザインとシラバス作成、学修支援者との連携などを学修しました。

昨年度から、大学教員希望者を当協会の会員校へ紹介する仕組みを作り、昨年度の受講者から1名の方が今春大学教員としてスタートしました。今年度の受講者の中にも2名の希望者がいます。今後、この養成講座では、大学実務家教員を養成するとともに教員への道筋を作る役割を担っていきます。



実務教育優秀教員寄稿文

本協会は次の要件を満たす教員を「実務教育優秀教員」として表彰し、表彰状と副賞の記念楯を授与しています。

1. 学生による授業評価が当該年度全学期にわたり自校の最高水準であること
2. 研究や社会的活動において実務教育の充実向上に貢献する業績を挙げていること

「君たちの問題は頭ではない、心だ」



大妻女子大学短期大学部
家政科 生活総合ビジネス専攻

玉木 伸介

2011年4月、大妻女子大学短期大学部家政科生活総合ビジネス専攻で、初めて教員となった。学生に接してすぐに気づいたのは、学びのルールの上を自力走行できる学生とそうでない学生がいることだった。前者は「こういう学びの分野がある」ことさえ教えれば、何の手もかからない。

問題は後者だ。潜在能力は明らかに社会人として自立可能なものだ。ところが、自ら学ぶことが何とも下手なのである。これでは、人生100年時代を生きていけない。

彼女は、学びに関して歯がゆいほど弱気である。Aさんは、就職のために必死で勉強する立派な学生だった。彼女には敬服すべき積極性があり、筆記試験の勉強でしばしば私のところへ質問に来た。ある時、中学の三平方の定理が分かれば簡単にできる問題を持ってきた。私が説明を始めると、「先生、私には三平方の定理は無理だと思う」という。中学の数学でよほど傷ついたのだろう。

この場合、ソリューションは彼女の凍り付いた心を溶かすこと。幸い、突破したい試験がある。「いいかい、小学校の三角定規セットの一つは直角二等辺三角形で、1、1、 $\sqrt{2}$ だ。もう一つは30度、60度、1、2、 $\sqrt{3}$ 。これだけ覚えれば点数はザックザックと取れる」とけしかけた。目の前に試験があるから、彼女は反応した。もとより、彼女の頭脳は何ら制約ではない。

結局、彼女の就職は成功した。今、社会のために胸を張って仕事をし、経済的な自立も達成した。就職の筆記試験は、貴重な成功体験だろう。

弱気な学生たちの問題は、頭脳ではない（既に十分に良い）。必要なのは、成功体験を味わう機会をいくつか提供することだ。ときどき、学生たちに「君たちの問題は頭ではない、心だ」、「頭は既に十分に良い。そして、心は一晩で入れ替えることができる」と言う。心の入れ替えを助けるべく成功体験を味わう機会を作り、いわば「勝ちグセ」をつけさせる。これが教員の仕事なのだろう。

「地域社会との連携を通じた実務教育の向上を目指して」



仙台白百合女子大学 人間学部
グローバル・スタディーズ学科

熊谷 健二

この度は、実務教育優秀教員として表彰していただき、誠にありがとうございます。このような栄えある賞をいただけたのは、本学教職員の皆様のご支援と学生たちの熱意ある取り組みがあってのことだと深く感じております。

私はこれまで20年以上にわたり、情報教育を中心に学生たちと向き合ってきました。情報技術分野は進化が早く、授業においては単なる知識習得にとどまらず、学生一人ひとりが自ら考え、手を動かすことで、自発的に学ぶ力を身につけられるよう工夫を凝らしてきました。近年では、ゼミの学生たちと地域の小中学生を対象にしたプログラミングワークショップを開催するなど、学内外のつながりを活かした活動にも取り組んでおります。このような活動を通じて、学生たちは自身の知識を他者に伝える難しさや意義を学び、地域社会に貢献する実践的な学びの場にもなっています。

大学における実務教育の充実を目指す上で、最近特に留意しているのは、AIやデータサイエンスといった急速に発展する分野の教育を取り入れることです。近年の生成AIの登場により、学習方法や働き方が大きく変わる中で、学生がデータやAIを適切に活用し、社会課題の解決に取り組む力を身につけることが求められています。今年度から始まった「AI・データサイエンス入門」の授業では、基本的なスキルの習得だけでなく、実際のデータを使った分析を取り入れることで、学生がどのようにして社会の中で自身のスキルを役立てられるかを実感できるような指導を心がけています。

今後も、学生が時代の変化に対応し、生成AIをはじめとする最新技術に対する理解を深め、柔軟に新しい技術を使いこなせるように支援していく所存です。本表彰を励みに、さらに一層の努力を重ねていくとともに、地域社会との連携を強化し、学生にとって実践的で充実した学びの場を提供できるよう努めてまいります。関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

コミュニケーション能力育成に活かす「プレゼンテーション演習」



京都文教短期大学
幼児教育学科

千古 利恵子

社会人基礎力の養成は、高等教育機関に課せられています。「プレゼンテーション演習」担当の私も、その重責を痛感していました。なぜなら、学生たちのコミュニケーションの方法が変化していると感じていたことと、「他者との関係構築には同調が重要」との考えを変える方法が見出せずにいたからです。

「プレゼンテーション演習」では「プレゼンテーション概論」で習得した知識を実践に活かす演習を重視しました。授業は、受講生が自身の考えを自身の言葉で表現することのためらいを除くためにプレゼンのテーマを示し、設定理由を説明することにしたのですが、なかなかテーマが決められないのです。自身の興味や関心を他者に知られることへの抵抗が拭えないようでした。他者からの評価を警戒することが習慣化しているのも原因のようでした。社会人にはバーバル・コミュニケーションが必要であるので、プレゼンテーションの練習をしましょと促しても、硬直した心の解放には時間を要しました。ところが、AIを活用し自身のテーマに必要な情報を収集し、パワーポイントで発表資料を作成しスピーチ原稿が完成すると、人前で話す苦手意識は徐々に薄らいでいったようです。この様子から、AIの活用はコミュニケーション能力の向上にも役立つと確信し、本学が必携にしたノートパソコンを使用する演習を増やそうと考えました。

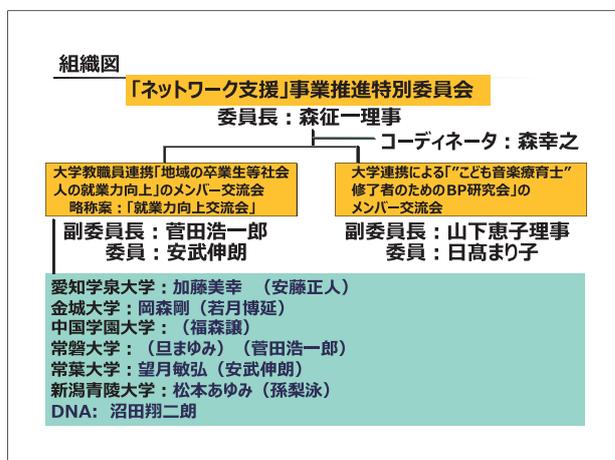
受講生が希望する業種は多様です。コミュニケーション能力は業種を問わず重要な社会人基礎力ですから、カリキュラムは社会人育成に対応するものになっています。就職先からの高評価は、全教員が自らの指導法改善と科目間連携に努め、コミュニケーション能力の育成に取り組み続けた結果といえそうです。

実務教育優秀教員として表彰して頂いた私は、2023年度末で京都文教短期大学を退職しました。2025年4月からは本協会の表彰に恥じないよう、実務教育の指導経験を非常勤講師として某大学の教育に活かそうと考えています。

※大学名、所属、職名は2024年3月31日現在です。

当協会が取り組んだ「ネットワーク支援事業」

当協会は新規事業としてネットワーク支援事業を行うことを2018年度に決定いたしました。支援する事業として選んだプロジェクトは、それまで試行的に準備を進めていた「就業力向上交流会」と「こども音楽療育士修了者のための研究会」の2つでした。「就業力向上交流会」プロジェクトは菅田浩一郎副委員長が中心となり、就業力交流会の活動を継続して行い、地域経済活性化に貢献するネットワーク作りを進めることを活動方針としました。また「こども音楽療育士修了者のための研究会」は山下恵子副委員長が中心となっており、こども音楽療育を担当する教員の研修会で学びを深めていくことを方針としました。

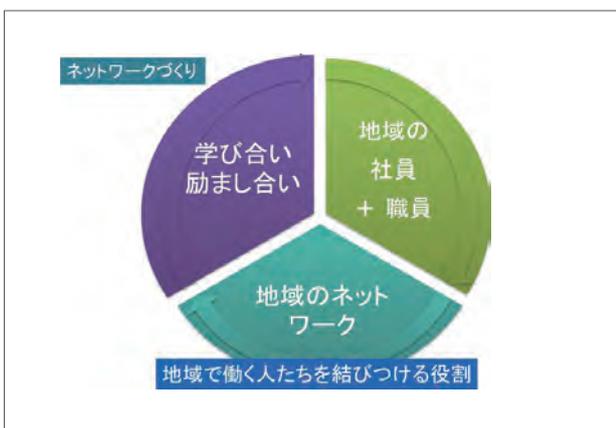


1. 地域の卒業生等社会人の就業力向上支援の活動

地域の卒業生等社会人の就業力向上支援活動は、経済界の要請により2000年代初頭に始まりましたが、この活動の目的は、地域の若手社会人の就業意識を高め、早期離職を防ぐこと、特に地方創生を意識し、地域での若手社員の離職抑制を目指しました。2016年に活動が本格化し、大学や短大の教職員が推進しているプロジェクトを「地域の卒業生等社会人の就業力向上支援7年間の活動報告」として報告書にまとめて2023年9月30日に発行しました。報告書では、取り組みの内容や課題、参加者の反応などを詳述し、若者の就業意識向上に向けた施策の参考になることを期待しています。以下が報告書の概要です。

(1) 委員会の目的

「就業力向上委員会」は、地域貢献を通じて若手



社会人の内発的動機付けを高め、離職抑制を目指す。メンバーは地域の大学・短大及びNPO団体から成り、多様な意見交換を行いながら、教育界の役割を再考し、地域の重要なアクターとしての存在意義を確認した。



(2) 構成と経緯

委員会は、全国の地方大学や短大からの教職員で構成され、年に数回の会合を通じて情報交換や活動の共有を行った。各大学の事情に応じた多様なアプローチが採用され、若手社会人の離職防止や内発的動機付けの維持に向けた取り組みが進められた。

(3) 報告書の概要と今後の展望

本報告書では、各大学・短大の具体的な取り組みや議論の内容、参加者の反応、活動から浮かび上がった課題を詳述した。報告書が読者にとって、若者の就業や動機付けに関する施策のヒントとなることを期待した。

(4) 構造と論理的流れ

報告書では、まず委員会の設立背景と目的を述べ、次にその構成と活動内容に焦点を当て、最後に報告書の内容と今後の展望を示すことで、全体の流

れを整理し、読者に具体的な理解を促した。各セクションは論理的に関連し合い、若手社会人の支援に向けた具体的な取り組みを強調した。

2. こども音楽療育士養成校情報交換会

「こども音楽療育士修了者のための研究会」では、こども音楽療育士養成校の教員を対象として、2018年度は対面での研修会、2021年度はアンケート調査、2022年度はオンラインでの研修会を開催しました。2022年度の研修会について詳細を報告します。

(1) 目的

「こども音楽療育士修了者のための研究会」を全国で開催できるように、養成校間で交流し、実習の取り組みや「到達目標達成度評価」の情報交換を行い、養成校の担当教員の学びを深めることを目的とした。

(2) 日時

2023年2月19日（日）13:00～16:00

(3) 場所

宮崎国際大学

(4) 参加人数

17名（県外13名、県内4名）、9校
東筑紫短期大学 保育学科、茨城女子短期大学 保育科、神戸教育短期大学 こども学科、大阪千代田短期大学 幼児教育科、福岡女子短期大学 音楽科、東海学院大学、大阪成蹊短期大学、宮崎学園短期大学 保育科、宮崎国際大学

(5) 内容

◆事例報告

- ・「こども音楽療育士資格取得 導入からこれまで」茨城女子短期大学
- ・「こども音楽療育 実践を通して」宮崎国際大学

◆情報交換会

- ・養成校の取り組みについて
- ・リカレント教育の必要性
- ・「到達目標達成度評価表について」

◆今回の研修会の成果と今後の研修取り組みについての確認

(6) 事例報告について次の感想・意見が寄せられました。

① 事例報告について

- ・学生の発表が素晴らしく、実習を通じて確かな学びを得ていることに感心した。

- ・各参加校の事例が充実しており、指導内容の参考になった。
- ・大学ごとの特色や進め方を知ることができ、今後の参考にしたい。
- ・自己反省を促す良い機会となり、来年度の実習の方向性に役立った。
- ・学生の即興作品や教材の紹介も非常に参考になった。
- ・各校の取り組みを通じて、学生が実践し成長する様子を学べた。

② 情報交換会についての感想・意見

- ・実習の見えない部分が発表を通じて明らかになり、有意義な研修会だった。
- ・初参加で、実施方法や報告がバランス良く、時間があっという間に過ぎた。
- ・各大学の工夫や共通の課題について学ぶことができた。
- ・こども音楽療育士の養成の重要性を再認識し、卒業生とのつながりを深めたい。

③ 今後の希望

- ・研修会の企画に感謝し、今後も参加したい。
- ・卒業生のリカレント教育やネットワーク作りの機会を増やしてほしい。
- ・研究会としての存続を希望し、全国大会の研修会を開催してほしい。
- ・学生にとっても有意義な時間を提供し続けてほしい。



当協会からのプロジェクトへの支援は終了しましたが、2つのプロジェクトの活動は現在も続いています。

協会からのお知らせ

1. 2023年度実務教育優秀教員被表彰者

2023年度の「実務教育優秀教員」として、以下の4名の方を表彰しました。

No.	大学名	氏名	職名	所属
1	仙台白百合女子大学	熊谷 健二	准教授	人間学部 グローバル・スタディーズ学科
2	神戸松蔭女子学院大学	岩田 英似子	准教授	文学部 英語学科
3	大妻女子大学短期大学部	玉木 伸介	教授	家政科 生活総合ビジネス専攻
4	京都文教短期大学	千古 利恵子	教授	幼児教育学科

※大学名、所属、職名は2024年3月31日現在です。(敬称略)

2. 2023年度資格認定証授与数

2023年度の資格認定証授与数は6,826件で、内訳は大学2,433件、短期大学4,393件、また資格認定証の授与開始からの累計数は、669,876件となりました。

3. 2024年度新規入会校

2024年度からの新規入会校は次の4校です。

No.	大学名	所在地	学長	申請資格
1	吉備国際大学	岡山県高梁市	河村 顕治	園芸療法士
2	聖カタリナ大学	愛媛県松山市	坂原 明	データサイエンス・AI実務パスポート
3	高崎健康福祉大学	群馬県高崎市	石田 朋靖	データサイエンス・AI実務パスポート 上級データサイエンス・AI実務パスポート
4	京都西山短期大学	京都府長岡京市	加藤 喜朗	秘書士、ビジネス実務士、情報処理士

4. 2024年度評議員及び役員の変動について

○評議員

新任		退任	
濱崎 千鶴	鹿児島純心女子短期大学 副学長	有馬 義秀	鹿児島純心女子短期大学 副学長
加茂 純	一般社団法人CDO Club Japan 代表理事	坂田 甲一	TOPPANエッジ株式会社 相談役
長谷川 誠	神戸松蔭女子学院大学 副学長	坂本 真佐哉	神戸松蔭女子学院大学 副学長

○役員

新任		退任			
理事	加藤 美紀	仙台白百合女子大学 学長	理事	矢口 洋生	仙台白百合女子大学 学長
	村崎 文彦	学校法人村崎学園 理事長		村崎 正人	学校法人村崎学園 理事長
監事	坂田 甲一	TOPPANエッジ株式会社 相談役	監事	佐々木 雄太	学校法人市邨学園 監事

5. オープンバッジの導入について

2025年度から資格認定証にデジタル認証のオープンバッジを併用する準備を進めています。ご期待ください。詳細は2025年度にホームページでお知らせします。

株式会社スタッフアイ

人材に関わる
お悩みがあれば
気軽にご相談ください。

**ワンストップ制のスタッフアイだから
ベストマッチの人材提供が可能です!**

<p>メイン職種 オフィスワーク 大学事務、総務事務、 広報など</p>	<p>対応可能エリア 東京を中心とした関東エリア 大阪を中心とした関西エリア</p>
---	--

〒104-0031
東京都中央区京橋2-5-21 京橋NSビル8階
03-3562-7808
info@staffi.co.jp 担当：出口



永和監査法人
EIWA AUDIT CORPORATION

私たちは、法人が抱えるリスクや問題点を把握し、理解し、的確な監査手続を提案、選択しています。メンバーで話し合いを行い、業務を進め、クライアントに対して持続可能な成長戦略を掲げています。公認会計士に興味のある、または公認会計士の勉強をしている学生の募集をしています。

法人名	永和監査法人
設立	2005年4月
住所	〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 5-1 兜町第1 平和ビル 4階
連絡先	Tel 03-6661-2110
エントリーフォーム	https://eiwa-audit.com/entry-form/

株式会社シー・イー・アイは、全国の国公立大学様向けに、人事・労務領域のリスクから護る傘として、各分野の専門家が、質の高いサービスをご提供いたします。

CEI
Corporate Evolution Institute

ご相談やお見積りなどはお気軽にご連絡ください。



サービスの具体的な内容



主なサービス内容

- 1.人事・労務コンサルティング
- 2.職員研修企画・運営
- 3.人事評価制度構築支援

株式会社 シー・イー・アイ
〒102-0085 東京都千代田区六番町1-8 馬場ビル
☎ (03)5213-3421 Fax(03)5213-3422
http://www.ceinet.co.jp E-mail: info@ceinet.co.jp

RADIX

おかげさまでラディックス株式会社は、会社設立30周年を迎えることができました。

**お客様のオフィスを
トータルサポート**

ラディックスは創業以来マルチベンダという立場で、お客様のオフィスの情報化を支援する企業です。コンサルティングから設計・開発・導入・サポートまでワンストップで、サービスをご提供します。お客様一人おひとりに合った働きやすい職場になるよう、様々な部門のプロフェッショナルたちが、お手伝いさせていただきます！オフィスでの「お困りごと」ならなんでもお気軽にご相談ください！

2025 新卒採用 Recruit **マイナビ・リクナビにて
エントリー受付中!**
成長できる環境がここにある!



ラディックス株式会社 **お問合せはこちら**
https://www.radix.ad.jp TEL:03-5210-7731
担当：城東営業所 齋藤 まで

編集業務の委託サービス

編集業務支援サービス

Edit Partners

広報誌、会報誌などの編集業務はお任せください。
人手不足を解決いたします。

明確で良心的な料金設定 柔軟で豊富なプラン




ラーメン 900円-

**リゾットまで美味しい
至極の一杯**
野菜120g分の栄養が凝縮!
最後の一滴まで楽しめる至極の一杯を。

つけめん 1100円-
鶏ポタタン麺 1200円-
トリポタナ 1200円-
スパイシーポタ 1200円-

こだわりのポタージュスープ

化学調味料不使用

鶏ポタージュには、鶏肉と10種類の野菜で作るポタージュスープをベースに、旨味たっぷりで濃厚なのにまったりとした味わいの特長です。

鶏ポタージュには化学調味料も使用しない代わりに、こだわりの旨い野菜を旨い調味料、じっくり煮込んで作るスープには一杯あたり約120g分の野菜が入っており、体に優しい一杯です。

大門店(東京都港区)
お茶の水店(東京都千代田区)
蒲田店(東京都大田区)

詳細はHPをご覧ください



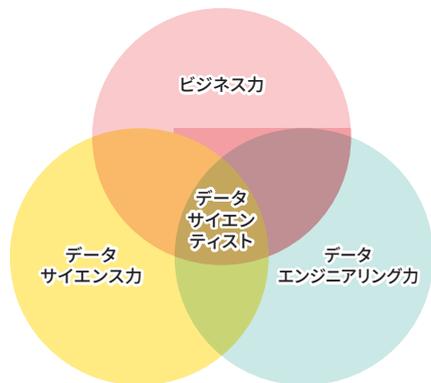
全国大学実務教育協会の資格一覧

— 就業力・汎用的能力・幅広い専門分野の実務力、専門分野のスペシャリスト志向の実務力の修得を目指す —

	資格の分類
就業力・汎用的能力 幅広い専門分野の実務力	〈大学と働く現場をつなぐ就業力を養う〉 ・実践キャリア実務士
	〈職業人に求められる基礎的・汎用的能力を身につける〉 ・情報処理士 ・ビジネス実務士 ・秘書士 ・プレゼンテーション実務士
	〈進化する産業分野に対応した実務力を身につける〉 ・上級情報処理士 ・上級ビジネス実務士 ・上級ビジネス実務士（サービス実務） ・上級秘書士 ・上級秘書士（メディカル秘書） ・データサイエンスAI実務パスポート ・上級データサイエンスAI実務パスポート
	〈国際社会に対応した実務力を身につける〉 ・上級ビジネス実務士（国際ビジネス） ・上級秘書士（国際秘書） ・国際ボランティア実務士
専門分野の スペシャリスト 志向の実務力	〈教育・福祉の専門分野に特化した実務力を身につける〉 ・こども音楽療育士 ・園芸療法士 ・カウンセリング実務士
	〈ビジネスの専門分野に特化した実務力を身につける〉 ・ウェブデザイン実務士 ・観光実務士 ・環境マネジメント実務士 ・上級環境マネジメント実務士
	〈地域社会の専門テーマに特化した実務力を身につける〉 ・社会調査アシスタント ・社会調査実務士 ・生活園芸士

2024年度に開設した新資格

「データサイエンス・AI実務パスポート」 「上級データサイエンス・AI実務パスポート」



この資格は、文部科学省の認定制度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」の学修目標に沿って当協会が設定した能力基準に基づいてカリキュラムを編成しています。
この資格を取得することによって、課題を発見し、分析し、事象を客観的に捉え、かつ創造的に解決する能力が修得できます。



一般財団法人 全国大学実務教育協会
Japan Association of University and College for Business Education

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-2-12 第三東郷パークビル二階
TEL:03-5226-7288 FAX:03-3263-8633
E-mail:jaucb@jaucb.gr.jp URL:https://www.jaucb.gr.jp

